

蒔絵(まきえ)や螺鈿(らでん)は古くから伝わる伝統工芸であり、螺鈿にいたっては福岡県内でも職人が数名しかいません。今月は、依頼の9割はインターネットによる特注生産という希少な分野で活躍する蒔絵・螺鈿職人の立花瑞夫さんをご紹介します！

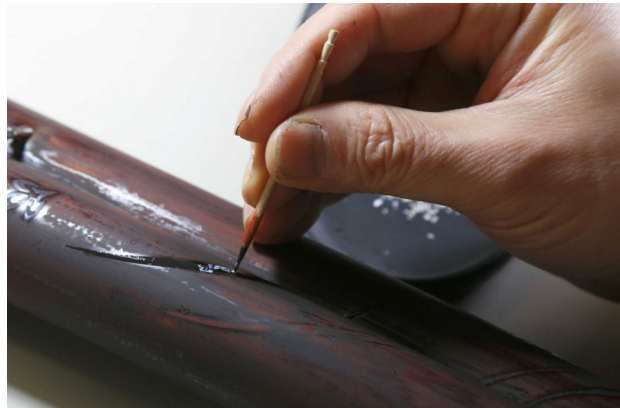


●蒔絵と螺鈿は、どう違うの？

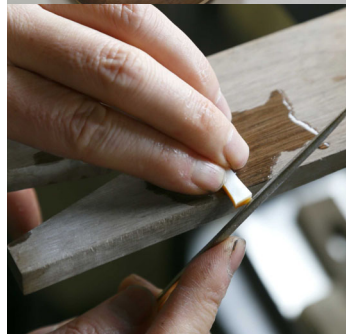
蒔絵は、漆で文様を描き金粉などを蒔いて装飾することで、螺鈿は蒔絵に含まれる技術の一つで貝殻を加工して装飾することです。貝殻の内側の輝く部分は、薄くスライスしたり細かく砕いたりして装飾し、上から丁寧に漆を塗って最後に磨きかけると、美しい輝きを放ちます。一連の細やかな作業は忍耐の連続ですが、磨いた瞬間にすべての苦勞が報われますよ(笑)。

●どんな依頼が多いのですか？

インターネット注文は毎回が特注生産なので、同じ依頼はほとんどありません。例えば、木製の乳歯ケースに歯の形の貝を埋め込むとか、釣りに使うルアーに貝を貼るとか、龍笛という楽器のケースに蒔絵と螺鈿で装飾するとか、さらには博物館に所蔵されている薩摩琵琶を螺鈿補修するなどの依頼がありました。この琵琶は、西郷隆盛が自決する前日に演奏されたという逸話があり、これまでで最も印象に残っている仕事です。また、エステティック・ミスパリ様の認証盾は、国内最



印象に残る仕事は、 薩摩琵琶の補修



高レベルの手作業で0.15ミリに削る断裁加工を行いました、現在はさらに精度を高めて0.1ミリまで可能になっています。

●立花さんにとって漆や螺鈿の魅力とは？

螺鈿は、自然界がつくり出す神秘の輝きと虹色の色彩です。磨けば磨くほどその魅力は増し、二つとして同じ模様がないので見ていて飽きないですね。また漆は、樹液を精製したもので完全に乾くまで酵素が働いていて、“生きている塗料を使わせていただいている”という感覚になります。どちらも素材そのものが魅力的なので、さらに加工技術を向上させたいという想いが常にあり、いくつになっても成長させていただけるという部分では職人冥利に尽きます。

●後継者はいらっしゃるんですか？

後継者と言うより研修生が一人います。彼は、北海道出身で白蝶貝の養殖場に勤めていた時に貝の魅力にとりつかれて、わざわざ福岡に移住して私のところに入居してたんなんです。今はオーストラリアにいて英語もペラペラなので、今後は彼と二人三脚で英語版のホームページを作成し、海外を視野に入れた展開を考えています。伝統工芸は後継者問題や需要の減少が心配されていますが、つい最近も革に螺鈿細工を施す最新技術でベルトのバックルを商品化したばかりです。螺鈿は他の素材と組み合わせることで伝統工芸の域を脱し、さまざまな可能性を広げていけると思うので、職人としてその一翼を担えたらとてもHappyですね！

取材終了後、ずっと気になっていたリーフの形をした螺鈿のネックレスを“月イチHappy取材記念”に購入させていただきました。光にあてた時のクリアな輝きや曲線の滑らかさは、立花さんのこだわりそのものです。これからもmade in JAPANの職人魂を、福岡から世界に向けて発信してください！



Profile
装飾工房「瑞緒」蒔絵・螺鈿職人／立花 瑞夫
1967年福岡県福岡市生まれ。東京造形大学卒業後、和風装飾を手掛ける制作会社で職人兼デザイナーとして活躍。1998年福岡に戻り、美術・デザイン講師を務める傍ら工芸品制作を行う。2003年装飾工房「瑞緒」設立。趣味は料理とビリヤード。凝り性が功を奏してどちらも上達の一途をたどる。

<http://www32.ocn.ne.jp/~colorplanet/mizuo.html>